

2015年  
(平成27年)

12月24日  
木曜日

織研新聞社  
発行所

パリで第2回「レヴェエラシオン」展

# 出展・来場者増え注目

## クラフト作品の発表とビジネスの場

【パリ】松井孝予通信員  
ファイナクラフト&クリエイションフェアの第2回「レヴェエラシオン」がこの秋、パリのグランパレで開催された。出展者、来場者ともにその数を大きく伸ばし成功を収め、ビジネスチャンスの場として注目された。

「ひらめき」「新星」などの意味を持つ「レヴェエラシオン」と名付けられたこのフェアは、2年ごとに開催される。6000人の手工芸職人で組織する「アトリエ・ダール・ド・フランス」が、現代のすばらしいハンドクラフトの最新作を発表し、それをビ

ジネスにつなげる場として13年に始まった。2回目の今回は、初回より13%増の340のクリエイターや団体が出展。うち仏国外からの出展が17カ国70人以上で、国際性をより高めた。宝飾、時計、装飾、レザー、メタル、陶芸、ガラス、帽子、ドレス、コルセット、テキスタイル、染色、グラフィックアートなど、美術館のレパトリーのような専門的なクリエイションが展示された。マニエール・パルス仏首相が開幕式に参列。開催5日間で15%増の3万8566人が来場。アーティスト、デザイナー、美術館関係者、建築家、装飾家、ラグジュアリー

メゾン、ギャラリー経営者などプロフェッショナルが全体の33%を占め、「活発な商談が行われ多くの売買契約が成立し、次作に向けた協業プロジェクトも進行中」と主催者。「このフェアは文化的成功を超え、同セクターのビジネスに不可欠なものになった」と強調した。



金子晴彦さんのスタンド



岡本真希さんの作品

栗原香織さんの作品

日本からは石垣焼の金子晴彦さんが初回に続いて出展し、琉球の海色の作品が仏ル・モンド紙に取り上げられるなど、高い評価を得た。金子さんは5年前にメゾン&オブジェのクラフトに出展。それを機に、現在カルーゼル・デュ・ルーブルで開催されている1725年創設のサロン・ド・ボザール(美術展)に選出され、グランパレへと続いた。レヴェエラシオンへの出展は、美術館関係者らの厳しい審査を通過しなければならぬ。「伝統工芸は当たり前、それを超えたアートをしなければ。本当に面白いがここに出品するために創作することで、世界のレベルに上がれる」と金子さん。バイヤーはクリスティーズや世界の美術館だ。「自分の作りたいものを作り、それを好きになってくれる人を見つけることにした。それは正解だった」話す。栗原香織さんは、パリのビ